

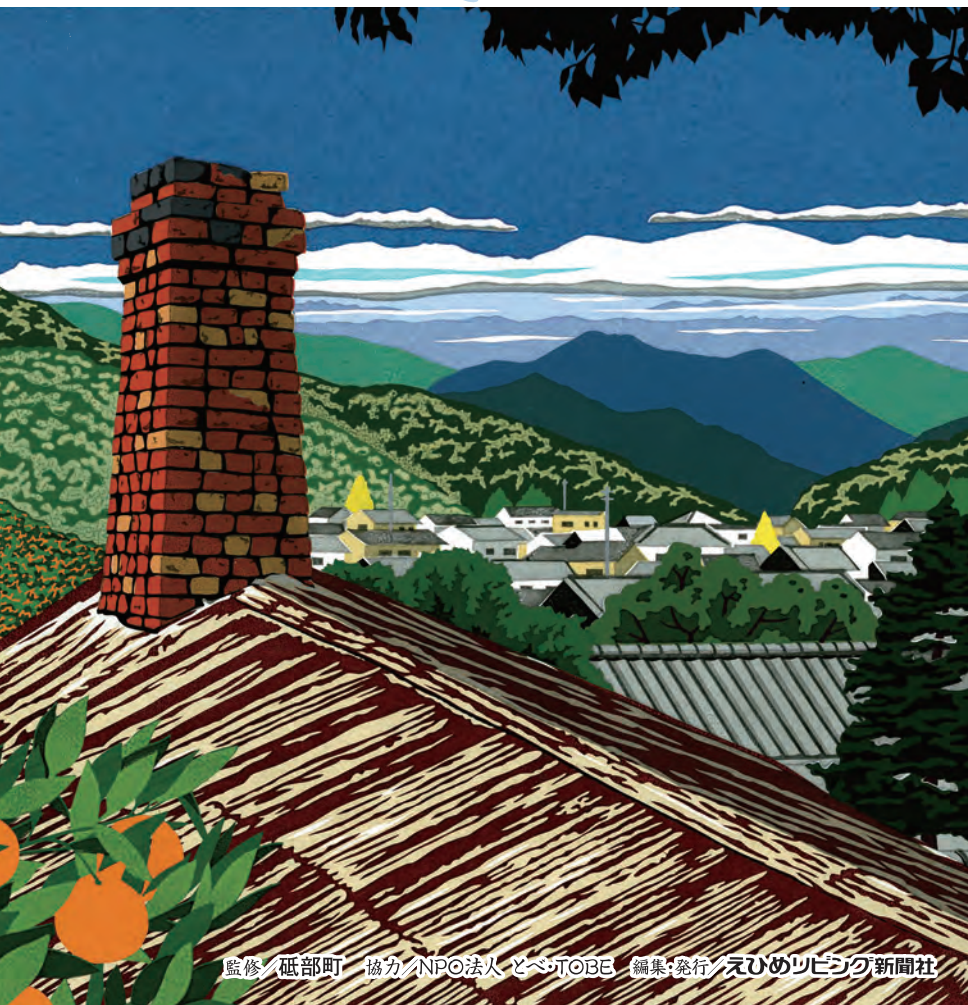
最新改訂版 第3版

街道 五十三次

とら かい とら

ひらべ帖

旅のついでに



陶里 砥部へようこそ.....	4
陶街道五十三次のしくみ.....	5
完巡者の声.....	7
ピックアップモデルコース.....	8
砥部地域全域地図.....	10
砥部地域北部地図.....	12
砥部地域南部地図.....	13
大南・五本松地区地図.....	14
大南・五本松・北川毛 周辺をまわるには.....	15
(駐車場・レンタサイクル)	
広田地域拡大地図.....	16



陶街道五十三次のお楽しみ.....	17
(砥部町の特産品あれこれ)	
砥部焼の歴史.....	18
現代砥部焼図鑑.....	20
砥部焼窯元紹介.....	22



【一】「念ずれば花ひらく」百番碑……………	29
【二】陶街道夢タワ―「愛伊砥くん」……………	30
【三】「ようこそとべ町へ」モニュメント……………	31
【四】大森彦七伝説の魔住ヶ窪……………	32
【五】赤坂泉……………	33
【六】理正院と麻生の金毘羅さん……………	34
【七】水満田古墳公園……………	35
【八】愛媛県総合運動公園……………	36
【九】愛媛県立とべ動物園……………	37
【十】大森彦七供養塔……………	38
【十一】陶壁画と手水鉢（砥部焼陶芸館）……………	39
【十二】ミュゼ里山房……………	40
【十三】えひめこどもの城……………	41
【十四】中央公民館の友愛の像……………	42
【十五】中央公民館の陶壁画……………	43
【十六】砥部町庁舎の四季山水陶壁画……………	44
【十七】文化会館の井上正夫胸像と資料室……………	45
【十八】砥部町陶街道ゆとり公園…………… アリーナへの道陶板……………	46
【十九】とべ温泉湯砥里館の陶壁画……………	47
【お休み処】千足休憩所……………	48
【二十一】登窯（砥部焼観光センター）炎の里……………	49
【二十二】松山南高砥部分校の陶壁画……………	50
【二十二】砥部衝上断層……………	51
【二十三】岩谷霊岩寺の厨子と須弥壇……………	52
【二十四】仙波溪谷……………	53
【二十五】神の森大橋……………	54
【二十六】陶芸舎とふるさと生活館……………	55
【二十七】道の駅ひろた「峡の館」……………	56
【二十八】山村留学センター……………	57
【二十九】佐々木酒造の主屋と煉瓦煙突……………	58
【三十】旧広田支所……………	59
【三十二】長曽池キャンプ場……………	60
【三十二】権現山……………	61
【三十三】農村工芸体験館……………	62



【三十四】上尾陶石……………	63
【三十五】銚子ダム公園……………	64
【三十六】銚子滝……………	65
【三十七】川富神社……………	66
【三十八】坪内家……………	67
【三十九】川登陶石と砥部陶磁器原料の水簾……………	68
【四十】梅山大登窯(梅野精陶所)……………	69
【四十二】砥石山公園……………	70
【四十二】陶里ヶ丘……………	71
【四十三】陶板の道……………	72
【四十四】陶祖ヶ丘……………	73
【四十五】砥部町陶芸創作館……………	74
【四十六】初雪盃酒造資料館……………	75
【四十七】大宮八幡宮……………	76
【四十八】とべむかしのくらし館……………	77
【四十九】大南商店街モニュメント……………	78
【五十】手づくり醬油工場(佐川醸造)……………	82
【五十二】砥部町商工会館……………	84
【五十二】JA砥部の陶壁画と映写機……………	85
【五十三】砥部焼伝統産業会館……………	86



四季の楽しみイベント……………	88
通行手形之印……………	93

陶里 砥部へようこそ

松山から国道33号を南下し重信川を越えると、240年以上の歴史を誇る砥部焼のふるさと「砥部町」に入ります。

障子山の麓、砥部川の段斜面に広がる砥部地域は、のどかな里山とモダンアー

トの薫りが混在した焼き物の里。
上尾峠を越えた山あい広がる広田
地域は、溪谷のせせらぎが美しい清流の
里です。

陶街道五十三次は陶郷を結ぶ「陶源郷」。
小さな感動の旅をしてみませんか。



見晴らしのいいスポットも多い

清流とほたる、
砥部焼とみかんの町を、
楽しみながら旅しよう。



33号から見る砥部。向かいが障子山(885m)

砥部町の プロフィール

- ◆人口: 2万1573人
(平成28年2月現在)
- ◆面積: 101.57km²
- ◆町の花: 梅 ◆町の木: クスギ

陶街道 五十三次のしくみ

R 33 ～ R 379 沿いの、名所旧跡を訪ねるスタンプラリー

平成17年1月1日に始まった「砥部の里めぐり陶街道五十三次」は、砥部町の国道33号から国道379号沿いに点在する自然・歴史・文化・砥部焼に関わるポイントで、自由に回っていただくスタンプラリーです。

回り方にルールはありません。ポイントは広域にわたっており、1回ではとても回りきれません。各ポイントに設置してあるスタンプ台とのやり取り



▲ あちこちに案内板も

砥部の里めぐり 通行手形



▶ [本陣] 砥部焼伝統産業会館には完巡スタンプも!

◀ 各ポイントには、このようなスタンプがあるので、訪ねた証に押印しましょう



きれませんので、何日に分けても、興味を持った所だけ訪ねても結構です。順番も手段も自由、期限もないので、足のおもむくまま、自分流に回ってください。

江戸時代に人々が東海道を旅したように、点在する名所旧跡を歩いたり、車やサイクリングで回ったりして、砥部の奥深さを味わってみませんか。

「砥部の里めぐり陶街道五十三次」
に関する問合せは…

■ 五十三 [本陣] 砥部焼伝統産業会館

☎089-962-6600

(9時～17時 月曜定休※祝日の場合は翌日)

陶街道を回ったらどうなるの？

◆すべてのポイント回ったら…

すべてのポイントを回ってスタンプを押したら、[本陣]砥部焼伝統産業会館でステッカーと砥部焼製の完巡記念メダルほか素敵なプレゼントを全員に進呈！完巡記念メダルにはその年の干支が描かれているので、毎年集めてみよう！



ステッカー



平成28年2月末現在、
完巡者(累計)は
5599人です！

砥部焼
完巡記念メダル
(コースター兼用)



平成28年2月末現在、
特巡者(累計)は
1万1360人です！



※記念品は十分にご用意
していますが、品切れの場
合はご容赦ください。

◆県外から来た人には…

お好きな5つのポイントを回ったら、砥部焼製の特巡記念メダルと、砥部焼のルーツや魅力をまとめた冊子『砥部焼』を進呈！[本陣]砥部焼伝統産業会館でスタンプを見てください。(県外在住を証明する免許証または健康保険証などを持参のこと)

◆砥部焼の里11ウオーク(P8参照)に参加すると…

11カ所全部回り、スタンプを押すと、[本陣]砥部焼伝統産業会館へご優待！入館料大人300円が無料になります。

平成28年2月末現在、
11ウオークによる
伝産会館入館者(累計)は
2805人です！

陶街道五十三次 巡者の声



思い出となった、えひめこどもの城や砥部焼作品

絵付けもしたし、遊べるところもあったし、楽しかった！

26年から28年にかけて、おばさんと一緒に陶街道五十三次を回りました。最初は、砥部町をいろいろな回つたら、プレゼントがもらえるかもって聞いて回り始めた



松山市在住
越智 琳太郎くん

けど、道にいろいろ砥部焼があつて見るのも楽しかったし、小さい頃からピースや猿が好きでよく行つた、とベ動物園やこどもの城も入つていてよかつた。農村工芸体験館では、自分の好きなものが描ける絵付けがあつたので、ぼくは妖怪キヤラを描きました。近くに長いローラー滑り台があつて、楽しかつたです。全部回つたら砥部町のいいところがわかつたし、記念品ももらえてうれしがつたです。

住んでいても知らなかったまちの魅力 親と子どもと三世代で巡りました



現在は松山市に住んでいますが、砥部町に住んでいる実家の母から一緒に回らない？と誘われたのがきっかけ。2回目には子どもと母親とで巡りました。35番の銚子ダム公園は春の桜が満開でとてもきれい

春から桜や新緑が美しい銚子ダム公園周辺と、地元の野菜や特産品でにぎわう道の駅峡の館

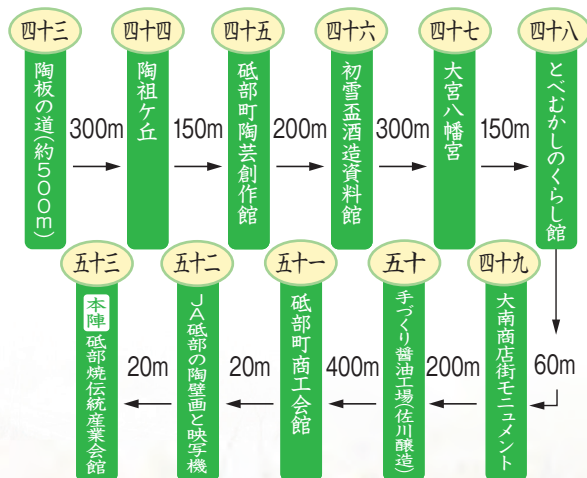


松山市在住
竹葉 真由美さん

でした。お弁当を持って行つたんですよ。それに、34番の上尾陶石では砥部焼の原料採掘を知り、間近にみて感激。おじさんが1個持つて帰つていいよつて言つてくださったのも心に残つています。道の駅の峡の館のシイタケはおいしかったです。結婚するまで17年も砥部に住んでいたので、知らなかつた砥部町の魅力に出会えたことが大きな発見でしたね。

砥部焼の里ゾーン 11(イレブン)ウォーク

【コース説明】 陶街道五十三次の中心である砥部焼の里ゾーンには、43番～53番まで11ポイントが集中しており、そぞろ歩きをしながら砥部焼のエッセンスが味わえる。陶板の道や陶祖ヶ丘からは美しい陶郷風景が一望でき、砥部町陶芸創作館では絵付け体験もOK。ここかしこに砥部焼のオブジェや案内板があっておもしろい。



砥部焼の源流を訪ねて ドライブを楽しむ

【コース説明】 砥部焼の源流ともいえる川登(かわのぼり)地区で、昔ながらの風景を楽しみながら、広田地域へ車を走らせよう。のどかな田園地帯を通して峠越えをするドライブコースだ。農村工芸体験館では焼き物体験ができる。



ピックアップ コース モデル

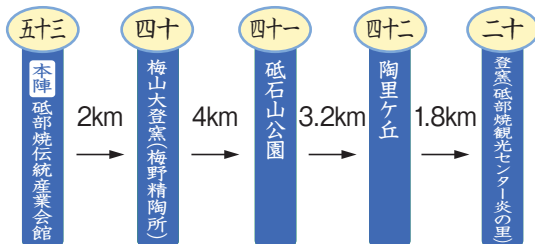
時間に限りのある人は、左記のモデルコースを参考に、自分流のプランをたててみよう。

体験ができる施設

- 十一 砥部焼陶芸館 (P39参照)
- 二十 砥部焼観光センター
炎の里 (P49参照)
- 三十三 農村工芸体験館 (P62参照)
- 四十 梅野精陶所 (P69参照)
- 四十五 砥部町陶芸創作館 (P74参照)

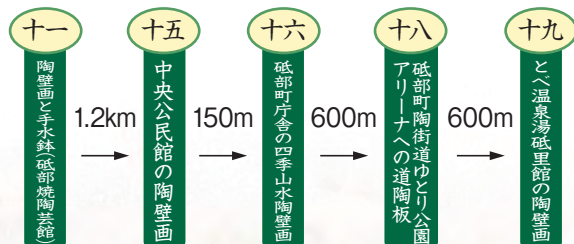
砥部焼の「原点」と「今」を探访

【コース説明】 砥部焼伝統産業会館をスタートし、砥部町最大の窯元「梅山窯」を見学。その後、山道を登って迫力満点の砥石山へ行ってみよう。窯元が集まるモダンな窯業団地「陶里ヶ丘」で、ギャラリーや工房を探索するのも楽しい。帰りは砥部焼観光センター炎の里でショッピング。



陶壁めぐりをしてアート気分

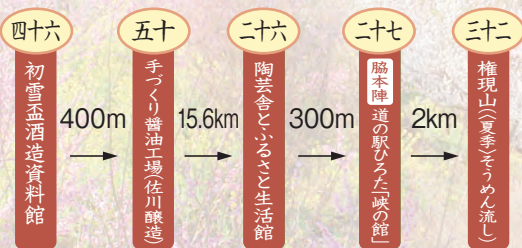
【コース説明】 砥部焼で作られた陶壁を訪ねるコース。砥部町庁舎を中心に、大作の陶壁が狭いエリアに集まっている。最後は、とべ温泉湯砥里館でお湯につかりながら、更紗文の陶壁画を鑑賞しよう。



手づくりの味を求めてのんびりドライブ



【コース説明】 蔵元の初雪盃酒造には各窯元の徳利とおちよこがズラリ。試飲させてもらえるのもうれしい。佐川醸造の珍しい伝統的な醤油製造も見学したい。道の駅ひろた「映の館」で広田地域の特産品を入手したら、夏場はそうめん流しがおすすだ。





バスの場合



☎089-948-3172

車の場合

松山ICから

砥部町役場まで 約7km
砥部焼伝統産業会館まで 約8km
広田支所まで 約25km



砥部地域北部





おおみなみ ごほんまつ きたかわげ
大南・五本松・北川毛周辺を
まわるには...

砥部焼の窯元は、大南、五本松、北川毛に集中している。また、大南周辺に、砥部焼伝統産業会館や陶板の道など、砥部焼の中核施設や見どころが集まっている。車を止めて歩いたり自転車を借りて回ってみよう。町の至るところに砥部焼を発見し、違った視点からの焼き物の里の風情を味わうことができる。

1. 駐車場について

大南周辺を回る時は、次の駐車場に止めて歩くか、レンタサイクルを利用するといい。

<駐車場位置>

★砥部焼伝統産業会館（50 台／建物前と裏にある）

2. レンタサイクルを利用しよう！

窯元群のある大南・五本松・北川毛などを回る時は、砥部町観光協会のレンタサイクルが便利だ。陶板の道はアップダウンがあるので少々キツイかもしれないが、窯元めぐりに利用する人は多い。

なお、自転車は借りた所にお返しを。



砥部焼伝統産業会館

（P86・87 参照）

9時～16時30分

㊟月曜（祝日の場合は翌日）

1台1回300円（短時間でも

終日でも同料金）

☎089-962-6600

※電動あり



一 広田地域拡大



陶街道五十三次のお楽しみ

～砥部町の特産品あれこれ～

七折の梅製品

七折梅園、七折小梅の里で知られる砥部町は、梅製品も多彩。酸味が柔らかく種が小さい梅干しをはじめ、シロップ、ゼリーなどお洒落な加工品が登場している。



砥部焼の里の和菓子

砥部の名所旧跡、砥部焼や梅の里をイメージした和菓子も人気。お土産もののコーナーなどでも購入することができる。



陶街道ブランドの酒製品

昔ながらの製法にこだわって造られた地酒にも「陶街道」ラベルがある。鮎や、坂村真民の詩を書いたお酒などもお土産にはぴったり。

砥部の特産品

自然に恵まれた砥部には、おいしいものがたくさんある。じねん

じよ、乾しいたけなど、産直所などで手に入れられる。みかんは、無人販売所で簡単に買うこともできる。



砥部焼のアクセサリー

砥部焼で作った、砥部町のキャラクター「とべっち」と、愛媛県の「みきゃん」。手作り、手描きにこだわる砥部焼女流作家たちから生まれたグッズです。



砥部焼の歴史

◆藩の命で磁器を開発

砥部は古くから焼き物が栄えた土地だった。焼き物に適した土や燃料のアカマツを産出したこと、登窯に適した傾斜地があつたことによる。砥部焼の名が初めて文献に登場するのは、元



▲古砥部と呼ばれる江戸・明治の手描き染付の茶碗や皿、蕎麦猪口（そばちょこ）など



▲江戸時代の陶片。「安永」の文字が読める

文5年（1740）の『大洲秘録』で、当時は今のようないろ器でなく陶器であつた。

磁器への転換は安永年間（1772～80）、藩の財政立て直しを図ろうと、大洲藩主が磁器の生産を命じたことによる。開発を担った杉野丈助は五本松に上原窯を作り、幾多の苦難を乗り越え、安永6年（1777）ついに磁器焼成を成功させた。

その後、文政元年（1818）には向井源治が原料革命となる川登陶石を発見し、さらに嘉永元年（1848）、井岡太蔵がトンバリ（煉瓦）を使った窯を造るなど、技術革新が進んだ。この結果、嘉永年間には17軒ほどの窯元ができ、大洲藩・新谷藩ともに砥部焼の税収が重要な財

源となつていた。

◆輸出で栄えた黄金期

明治に入り、砥部焼はさらに発展する。五松斎窯では九州有田から陶工を招き、錦絵磁器を手がけたほか、型絵を巻き付けて絵付けを施す型絵染付けを採り入れ、大量生産を可能にした。

愛山窯の向井和平は象牙色をした淡黄磁の焼成に成功、明治26年（1893）シカゴ世界博覧会に出品して二等賞を獲得し、砥部焼の名を世界に広めた。

この頃は砥部の労働人口の半分以上が製陶業に従事しており、生産量の7割もが世界に輸出されていた。ところが、昭和初めの大不況で窯元や問屋が廃業やがて時代は戦争へ突入していく。

◆民芸運動による再評価

終戦後自分の窯を起こし

▼昔の窯元の様子が描かれた陶板。初代・中元竹山作（砥部町陶芸創作館）



砥部焼の作り方

①陶石採掘

砥部焼の主な原料は、地元に産出する安山岩の陶石化したもの。この陶石を採掘する。(34番上尾陶石 参照)



砥部焼協同組合のミル

②粉碎精製

陶石を細かく砕いて、坯土(焼き物の原料)を作る。砥部ではミルという機械を使う砥部焼協同組合と、昔ながらの杵つきで行う砥部陶磁器原料(株)で作られている。

③土練

土練機を使って陶土の硬さを均一にし、空気を抜いて粘り気を出す。土練以降の作業は窯元で行われる。

④成形

手びねり、ろくろ成形、鋳込みなどの技法を使って、形を作る。



⑤仕上げ

生乾きの時に、削ったり、サンドペーパーで磨いて仕上げる。



⑥乾燥

天日や余熱を利用して乾燥させる。



⑦素焼き

窯に入れて900～950度で、8～10時間かけて焼く。

⑧下絵付

主に手描きで呉須などで、絵模様を描く。

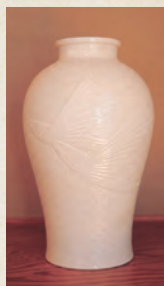


⑨施釉

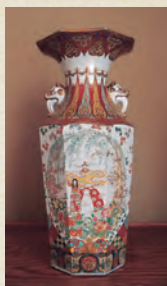
下絵付したものの上に、釉薬(うわぐすり)をかける。

⑩本焼

釉薬をかけたものを、1300度程度で15～24時間かけて焼く。



▲愛山窯淡黄磁魚文彫花瓶(大正時代)



▲錦手の技法を得意とした五松斎窯の大花瓶(明治時代)



▲コバルトで染めた型絵の器(明治時代)

た陶工たちは国内向けの花器や置物などに力を入れるようになった。そんな折、民芸運動の父・柳宗悦や浜田庄司、富本憲吉らが砥部を訪れ、手仕事の技術が残っていることを高く評価、ロクロや絵付けの技術、デザイン力の上をアドバイスした。

この結果、大胆な筆づかいでのびのび描く「唐草のオリジナルタッチや青白磁が定着し、現在の砥部焼ができていく。

砥部焼は昭和51年国の伝統的工芸品に指定された。今では約80軒ほどの窯元が製作に励む。平成28年現在、国の伝統工芸士に認定されている人は16名を数える。

シンプルな中に温もりのある 伝・統・的・文・様

磁器でありながら、素朴で温もりのある砥部焼。丈夫で実用性もあり、暮らしの器としてコーディネートしやすいため全国的な人気を誇る。「砥部焼」としてイメージされる現在のスタイルは、昭和の民芸ブーム以降に確立。すっきりとした白磁に映える呉須が砥部焼の魅力を作り出している。

太陽文

バランスのとれた円が印象的だ。



なずな文



葡萄文(ぶどうもん)

野の草花をモチーフにしたものも多い。砥部の自然が焼き物に生きる。



コレクションしたくなる 個性豊かな作品

近年は若い作家や女性作家が増え、新たな感性で、これまでのスタイルにとらわれない個性豊かな砥部焼も数多く登場している。



※高台（こうだい）…碗や皿などの器を支える底の部分

●くらわんか茶碗

高台※が大きく独特の形をしている飯碗。江戸時代、大阪の淀川で、船客に食べ物を売るときに使われた砥部焼茶碗の形を受け継いでいる。

●蕎麦猪口（そばちぐち）

シンプルなので組み合わせが楽しい。蕎麦猪口は砥部焼の人気アイテムだ。

ぽってりとしたフォルムが、
親しみやすさの秘密



唐草文（からくさもん）

迷いもなく大胆豪快に描かれる唐草文は、砥部焼を代表するデザインだ。



十草文（とくさもん）

植物の木賊（とくさ）をモチーフにした縦の縞模様で、簡略化された味わい深い文様。太さや間隔、色などのバリエーションが豊富。

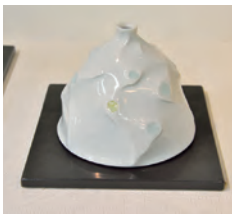


赤絵三つ葉文

呉須の藍に赤を加えてアクセントとしたもの。民芸の味わいが深まる。

●唐草文玉縁鉢

厚くて丸い縁が、温かさと少々のことではびくともしない頼もしさを感じさせてくれる。



砥部町にある
砥部焼窯元紹介

①

窯元名	住所	電話番号	ギャラリー	地図位置
遊器工房(ゆうきこうぼう)	砥部町重光155-2	089-956-0593		P12 B1
ヨシア工房	砥部町高尾田88	089-956-0680	○	P12 B1
一夢工房(いちむこうぼう)	砥部町上原町74-5	089-962-7128	○	P12 B2
明賀窯(みよががま)	砥部町川井1575	089-962-2347	○	P10 A2
敬三郎窯(けいざぶろうがま)	砥部町川井821	089-962-6328	○	P10 A2
工房薫(こうぼうかおる)	砥部町七折233	089-962-6042	○	P10 A2
東吉窯(とうきちがま)	砥部町宮内72	089-962-3740		P12 B3
Atelier Luxe(アトリエリュクス)	砥部町宮内470	089-962-1620	○	P12 B3
いろは窯	砥部町宮内588	089-962-4257		P12 B4
ミユゼ里山房(みゆぜさとさんぼう)	砥部町宮内980	089-962-3208	○	P12 B3
永立寺窯(えいりゅうじがま)	砥部町宮内1326	089-962-6069	○	P12 B4
松坂窯(まつさかがま)	砥部町宮内2053-5	089-962-5141		P12 B4
工房芥川(こうぼうあくたがわ)	砥部町宮内2215-2	089-962-5412		P12 B4
禎山窯(ていざんがま)	砥部町北川毛569	089-962-4715		P12 B4
山中窯(やまなかがま)	砥部町北川毛565	089-962-2474		P12 B4
岩田製陶所 貞山窯(ていざんがま)	砥部町北川毛221	089-962-2585	○	P12 B4
池本窯(いけもとがま)	砥部町北川毛395	089-962-3631		P12 B4
遠藤窯(えんどうがま)	砥部町北川毛307-3	089-962-6228	○	P12 B4
大西陶芸(おおにしとうげい)	砥部町北川毛796	089-962-2456	○	P14 B2
緑光窯(りょっこうがま)	砥部町北川毛774-1	089-962-2524	○	P14 B1
森陶房(もりとうぼう)	砥部町北川毛714	089-962-2482	○	P14 B1
生石窯(いくしがま)	砥部町北川毛618	089-962-6003	○	P14 C1
南光窯(なんこうがま)	砥部町北川毛616-2	089-962-2510		P14 C1
福幸窯(ふっこうがま)	砥部町北川毛668	089-962-7552		P14 C3
千山窯(せんざんがま)	砥部町千足359	089-962-2070	○	P13 B1

※窯元によって見学の対応が異なります。訪問の際はなるべく事前に連絡をしてください。



ヨシア工房

四国・砥部焼

ヨシアブルーは瀬戸内の青。器は和洋中なんにでも。ペンダントランプや洗面鉢も。工房ギャラリーにて常時展示販売。

〒791-2101 伊予郡砥部町高尾田88 図日・祝祭日
TEL/FAX 089-956-0680 図9:00~18:00
「ヨシア工房」で検索



すこし屋松田窯

手仕事からにじみ出る素朴さと、今の暮らしに馴染む軽やかさを感じる器。ギャラリーショップ併設。

〒791-2132 伊予郡砥部町大南826
TEL/FAX 089-962-1130 ギャラリーあり
<http://www.sukoshiya.com/>



大西陶芸

Ohnishi Tougei JAPAN

「品位とモダン」をコンセプトに、親子3人の持ち味が特徴。ギャラリー併設。

〒791-2131 伊予郡砥部町北川毛796
TEL 089-962-2456 ※土日祝は事前に確認を。
図平日9:00~17:00 <http://www.ohnishitougei.jp/>



里山房 (さとさんぼう)

砥部陶街道の芸術発信基地。ギャラリー、カフェ、工房併設。TOBEオーベルジュリゾートで使われている食器も扱う。

〒791-2120 伊予郡砥部町宮内980 図木曜
図10:00~17:00 TEL/FAX 089-962-3208
<http://www.ops.dti.ne.jp/~satosan/>

砥部町にある 砥部焼窯元紹介 ②

窯元名	住所	電話番号	ギャラリー	地図位置
里窯(さとがま)	砥部町川登1072	089-962-2802		P13 B4
草土窯(そうどがま)	砥部町川登417	089-962-4764		P13 C3
よの陶房(よのとうぼう)	砥部町川登85	089-962-3810	○	P13 B3
常山窯(じょうざんがま)	砥部町川登396	089-962-5688		P13 B3
陶房風(とうぼうかぜ)	砥部町川登61	089-962-3666		P13 B3
笹山工房(ささやまこうぼう)	砥部町岩谷口213	089-962-3880	○	P14 D2
陶房遊(とうぼうゆう)	砥部町岩谷口237-3	089-962-2791	○	P14 D3
梅山窯(株)梅野精陶所(ばいざんがま)	砥部町大南1441	089-962-2311	○	P14 B4
廣梅窯(こうばいがま)	砥部町大南1613	089-962-4322		P14 B4
みんなとう ごろう窯	砥部町大南1804	089-962-4704	○	P14 C4
三条窯(さんじょうがま)	砥部町大南2232-2	089-962-4198		P14 C4
すこし屋 松田窯	砥部町大南826	089-962-1130	○	P12 B3

※窯元によって見学の対応が異なります。訪問の際はなるべく事前に連絡をしてください。

窯元めぐりちょこっとメモ



ふらつと立ち寄り
村の駅 五本松
窯元散策エリアの五本松
には、ふらつと立ち寄れる



床の間を活用して
並べられた器の棚
は「村の駅 五本松」のシンボル

お接待ギャラリー「村の駅
五本松」がある。茅葺きの古
民家を利用した休憩どころ
で、懐かしい雰囲気も味わ
える。トイレや休憩に利用
でき、砥部焼の展示や販売
も行っている。駐車場あり。
金曜休み、11時～16時

窯元めぐりを
上手にするには
窯元は北川毛、大南、五本
松に集中している。車なら
砥部焼伝統産業会館の駐車
場に車を駐車して、徒歩か
レンタサイクルを利用する
とよい。徒歩や自転車なら、
車では気づかない風情まで
楽しむことができる。



のんびりとした陶郷の里を
楽しみながら窯元めぐりを

地域によっては車でない
と難しいところもあるので
事前に下調べをして出かけ
よう。

窯元名	住 所	電話番号	ギャラリー	地図位置
青達窯(せいいたつがま)	砥部町大南758	089-962-5345		P14 C2
客山窯(きやくざんがま)	砥部町大南634-3	089-962-2497		P14 C3
エヒメセラム	砥部町大南562	089-962-2321		P14 C2
佐藤窯(さとうがま)	砥部町大南488	089-962-6322		P14 D2
清月窯(せいげつがま)	砥部町大南715	089-962-2104		P14 C2
雲石窯(うんせきがま)	砥部町大南935	089-962-2111	○	P14 C2
白水窯(はくすいがま)	砥部町大南964	089-962-2156	○	P14 C2
青花窯(せいかよう)	砥部町大南964	089-962-6519	○	P14 C2
ウメノ青興陶園(うめのせいこうとうえん)	砥部町大南1035	089-962-2142	○	P14 C2
彰子窯(あきこがま)	砥部町大南90	089-962-6970		P14 D1
江泉窯(こうせんがま)	砥部町大南279	089-962-2448		P14 C1

※窯元によって見学の対応が異なります。訪問の際はなるべく事前に連絡をしてください。

焼き物用語辞典

◆磁器(じき)／陶石が主原料の磁土を使用した焼き物。硬く焼き締まり、吸水性がない。指ではじくと金属的な音がする。

◆陶器(とうき)／粘土分が主原料の焼き物。多孔質で吸水性がある。指ではじくと鈍い音がする。土ものともいう。

◆呉須(ごす)／酸化コバルト、マンガネ、鉄などを含む天然鉱物の顔料。焼成法により、藍色に発色したり黒みを帯びたりする。

◆染付(そめつけ)／素焼き素地に呉須で模様を描くこと。下絵付けの一種。

◆釉薬(ゆうやく)／陶磁器の表面を覆う薄いガラス状の皮膜のこと。うわぐすり、釉(ゆう)ともいう。陶磁器に色や質感を加え、丈夫で汚れにくくする。

砥部町にある
砥部焼窯元紹介

③

窯元名	住所	電話番号	ギャラリー	地図位置
青芳窯(せいほうがま)	砥部町五本松70	089-962-2229		P14 B2
英峯窯(えいほうがま)	砥部町五本松130	089-962-2149	○	P14 B2
西岡工房(にしおかこうぼう)	砥部町五本松51	089-962-5477	○	P14 B2
正月窯(しょうがつがま)	砥部町五本松142	089-962-3179		P14 B2
五松園窯(ごしょうえんがま)	砥部町五本松146	089-962-2163	○	P14 B2
竹山窯(ちくざんがま)	砥部町五本松145	089-962-2250	○	P14 B2
八瑞窯(はちずいがま)	砥部町五本松156-1	089-962-2553		P15 A2
岡田陶房(おかだとうぼう)	砥部町五本松173	089-962-7305	○	P15 A2
長戸製陶所 陶彩窯(とうさいがま)	砥部町五本松196	089-962-2123	○	P14 B2
勝山窯(かつざんがま)	砥部町五本松194	089-962-2097		P14 B3
春秋窯(しゅうじゅうがま)	砥部町五本松888	089-962-2608	○	P15 A2
龍泉窯(りゅうせんがま)	砥部町五本松885-23	089-962-4863	○	P15 A2
緑風窯(りよくふうがま)	砥部町五本松885-5	089-962-6369	○	P15 A3
ひろき窯	砥部町五本松885-6	089-962-7623	○	P15 A3
スギウラ工房	砥部町五本松885-7	089-962-6608		P15 A2
STUDIO ECCO(スタジオ エッコ)	砥部町五本松885-15	090-6967-0699	○	P15 A2

※窯元によって見学の対応が異なります。訪問の際はなるべく事前に連絡をしてください。



江泉窯 田村製陶所 (こうせんがま)

白磁に唐草文様の染め付けが特徴です。
温もりのある器で、毎日暖かい食卓を…と、
心掛けてます。

〒791-2132 伊予郡砥部町大南279 困日曜
TEL/FAX 089-962-2448 図平日9:00～18:00
●作品は江泉窯窯元にて販売可能。



長戸製陶所 (陶彩窯)

生活になじむ器を制作、
提案しております。

〒791-2133 伊予郡砥部町五本松196
TEL/FAX 089-962-2123 圖平日9:00～18:00
●陶彩窯にて見学・販売可能。



きよし窯

心に響く器づくりを目標に、
少しでもそこに辿りつくように
歩んで行きたい。

〒791-2133 伊予郡砥部町五本松364
TEL/FAX 089-962-2168 図日曜・祝祭日・土曜午後
<https://www.facebook.com/kiyoshigama>



輝山窯 (きざんがま)

豊かな想像力が生み出した「輝き」に
静かな感動が心を満たします。
贈り物に輝山窯の砥部焼をどうぞ。

〒791-2133 伊予郡砥部町五本松351
TEL/FAX 089-962-2597 圖9:00～17:00
●輝山窯にて見学・販売可能(日・祝祭日は事前連絡ください。)



梅山窯 (ばいざんがま)

130余年の歴史。「用と美」の実用工芸品を
すべて手作りにて制作。工場見学、
絵付け体験もできる。売店コーナー併設。

〒791-2132 伊予郡砥部町大南1441
TEL/089-962-2311 FAX/089-962-5594
圖8:05～16:50 図月曜または火曜他

砥部町にある
砥部焼窯元紹介

④

窯元名	住所	電話番号	ギャラリー	地図位置
桃太郎窯(ももたろうがま)	砥部町五本松885-9	089-956-4259	○	P15 A2
博雲窯(はくうんがま)	砥部町五本松885-18	089-960-7575	○	P15 A2
元晴窯(げんせいがま)	砥部町五本松885-20	089-962-3028	○	P15 A3
東窯(ひがしがま)	砥部町五本松885-21	089-962-7156	○	P15 A2
風山舎(ふうざんしゃ)	砥部町五本松885-22	089-962-4477	○	P15 A2
孤薫窯(こしょうがま)	砥部町五本松314-3	089-962-7304	○	P15 A3
公水窯(こうすいがま)	砥部町五本松336	089-962-4404		P15 A3
森岡製陶所 輝山窯(きざんがま)	砥部町五本松351	089-962-2597		P15 A3
きよし窯	砥部町五本松364	089-962-2168	○	P15 A3
満明窯(まんめいがま)	砥部町五本松385-1	089-962-5947		P15 A3
泰山窯(たいざんがま)	砥部町五本松416	089-962-2228	○	P15 A3
広谷窯(ひろたにがま)	砥部町五本松703-1	089-962-2406		P13 A2
金城窯(きんじょうがま)	砥部町外山225	089-962-4365		P10 A3
中田窯(なかたがま)	砥部町総津159-2	089-969-2077	○	P16 B2
つもる窯	砥部町総津95-1	089-969-2007		P16 B2
一海窯(いっかいがま)	砥部町総津95-1	089-969-2963		P16 B2
土筆窯(つしがま)	砥部町総津1798	089-969-2590		P16 B2
土造窯(つちぞうがま)	砥部町総津1798	089-969-2048	○	P16 B2

※窯元によって見学対応が異なります。訪問の際はなるべく事前に連絡をしてください。



食と器と業に暮らす...
つもる窯

植物を文様、形に作品製作中。
各種団体の体験教室も受付。(出張OK)
季節の陶芸作品づくりをサポート。

〒791-2205 砥部町総津 道の駅 峯の館向かい側
TEL090-5277-7138(お越しの際は連絡を)
わくワークで検索(★出張教室の日程等コチラから)

どんな願いでもかなう石に願いをこめて

「念ずれば花ひらく」 百番碑（開花亭）

砥部町名誉町民の
坂村真民さん（1909～
2006年）の代表的な詩作
「念ずれば花ひらく」を刻
み込んだ碑が開花亭にあ
る。この言葉は真民さんの母

が口にしていた言葉。碑は世
界各地にあるがこれはちよ
うど百番目に建てられたも
ので、碑の下に陶板には「ど
んな願いでもかなえてくだ
さる霊石です」との説明。



平成元年に建立。文字は真民さん自ら



落ち着いた雰囲気のある朴庵

心に残る詩作を生んだ
坂村真民さん



坂村真民さんは、高校の国
語教師を退職後、仏教精神
の詩を創作してきた人で、読
む人に勇気を与えてきた。
碑の後ろにある朴庵には、
真民さんの詩と直筆の書が
飾られている。平成16年1月
まではここで、真民さんによ
る法話が行われていた。「念
ずれば花ひらく」をモチーフ
にした青芳窯の森元青芳さ
んの人形は開花亭に展示。



地図 P12 B1

砥部町拾町16

☎089-958-5551

🕒12/31、1/1

🕒11時30分～

22時（土曜・日

曜・祝日11時～）

🅑100台

※スタンプ台は

朴庵の入口横



陶街道夢タワー 「愛伊砥くん」

県都松山市からの玄関口にある休憩所。合併市町村地域資源活用事業を利用して平成20年に完成。

休憩所北端に建つシンボルタワーの愛称「陶街道夢タワー」「愛伊砥くん」は、400件を超える応募の中から選ばれ、愛媛県伊予郡砥部町の頭文字をつなぎ「タワー」が八角柱であることや、栄砥焼き物の里「砥部町」がま

すます発展（栄える）するようにとの願いが込められている。

デザインは、砥部焼協同組合有志と松山南高砥部分校の生徒の協力によるもので、砥部焼のイメージの「青」を基調に、町花である梅の花や、町のキャッチフレーズ、清流とほたる、砥部焼とみかんの町をモチーフに描かれている。

直径1.4m、高さ14.0m、陶板560枚使用
松山市（重信大橋）側から見たデザイン



壁面には陶街道五十三次の陶板が埋め込まれており、休憩所内には花壇やベンチが整備されている



①～②は50m

地図 P12 B1

砥部町拾町16先

☎089-962-2323
(砥部町役場)

※スタンプ台はタワー付近



直径約37cm、高さ約45cmの球体



拾町交差点の前に立つ

今は固定されている。
台座の書は、愛媛県窯業
試験場で元センター長の安
岡史朗さんのものである。



2～3は200m

陶街道
五十三次



観光客を迎えるユニークな作品 「ようこそとべ町へ」 モニュメント

国道33号と県道伊予川
内線の交差点そばにある
モニュメントは、デザインから
焼成まで、八瑞窯の白濁八
洲彦さんが手がけた作品
だ。曲げたパイプに砥部焼を
つけて、動きのあるフォルムを

作り出している。白濁さん本
人のおもしろさを感じなが
ら取り組んだというだけあつ
て、ユニークな作品に仕上がっ
ている。
当初は丸い砥部焼が実際
に動く造りになっていたが、

地図 P12 B1

砥部町拾町154-1

☎089-962-2323
(砥部町役場)

🅑 15台

※スタンプ台はモ
ニユメント横

